都市集合住宅における空間の多機能性と住まい方

—中国東北部の居住様式に関する研究—

MULTI-FUNCTIONAL SPACE AND WAY OF LIVING

—Study on the plan and life style of apartment houses in northeast China—

杉山和弥 —*1 野口孝博 —*2
西村伸也 —*3 月館敏栄 —*4
陸 偉 —*5 罗 玲 玲 —*6
森下 満 —*7 池上重康 —*8
岡本浩一 —*9

Kazuya SUGIYAMA —*1 Takahiro NOGUCHI —*2
Shinya NISHIMURA —*3 Toshiei TSUKIDATE —*4
Wei LU —*5 Lingling LUO —*6
Mitsuru MORISHITA —*7 Shigeyasu IKEGAMI —*8
Koichi OKAMOTO —*9

キーワード：

中国東北部, 北方住様式, 空間の多機能性, 部屋の性格, 住まい方

Keywords:

Northeast China, Life style of northern region, Multiplicity of using space, Characteristic of room, Way of living

1. 研究の背景と研究の位置づけ

1978年以降、中国では経済開放政策によって住宅事情が大きく変化し、都市集合住宅において居住者の住まい方や住戸は、近代化の影響を受け、大きく変化を続けている。今回対象とした、大連、ハルビン、瀋陽の3都市においても、人口増加にともない、7～8階建て以上の高層あるいは超高層集合住宅が多くみられ、高密度に建てられるなどの傾向がうかがえる。

中国東北部の集合住宅において、その住空間構成や住様式の特徴をみるためにも変化の過程にある実態を明らかにする必要がある。なかでも、特徴的な臥室を中心とした空間の多機能利用の現状を把握することや、近年に見られる住宅の機能分化の影響についても考察することは、今後の都市集合住宅のあり方を考えていく上で重要である。

中国の都市住宅を対象とした研究には、上北による中国の主要都市における集合住宅の平面構成とすまい方に関して伝統住宅との対比により考察したもの（注1）や、友清による都市集合住宅の平面構成要素を中心に歴史的観点から変化をみたもの（注2）がある。一方で、表野、藤田らによる地方性に着目して分析された研究（注3）や、王青による中国北方地域を対象とし伝統居住から現在に至るまでの平面と住まい方研究（注4）もみられる。しかし、北方圏の居住様式の視点から考察が行われている研究は著者らの研究蓄積（注5）を除いてはほとんどないのが現状である。

本研究は、中国東北部独特の採暖様式や住まい方に焦点をあて、研究グループ（北海道大学、新潟大学、八戸工業大学、大連理工大学、清華大学、ハルビン工業大学、瀋陽建築工程学院）が1993

In northeast China, a master bedroom is used variously, and various furniture has set in the master bedroom. In recent years, the area of a residence increases and living room is also large in connection with it. On the other hand, there is little change of the area of a bedroom, is the size which can set various furniture. A bedroom is used when receiving the customers in the good friend of relations. Thus, the bedroom is properly used by the merit of a visitor's relations, and the time zone. In northeast China, it is important to take that space is used for multiple purposes into consideration, when considering the life style of future northern countries.

年からおこなっている、北方圏の居住様式のあり方を探る研究の一つとして位置づけられる。

過去3年間にわたる大連、ハルビン、瀋陽における農村住宅調査では、カンを中心とする独特の住様式がみられ、それに対応した特有の平面構成がつくられていた（注6）。都市集合住宅においては、そうした伝統的な平面構成はみられないものの、部屋の性格・使われ方に類似したものがあるのも事実である（注7）。本研究は、文部科学省科学研究費助成金（基盤研究B・海外学術調査）を得て行われたものである。

2. 研究の目的

中国東北部の都市集合住宅では、接客やだんらんといった行為がその機能を備えた専用空間である起居庁（室）（注8）で行われるだけでなく、臥室（注9）においても接客・だんらんなどの行為が広く行われている。臥室を中心としたそれらの空間内で行われる行為の種類・量、生活場面の把握を行い、他の空間との関係を含めた住戸のあり方を検討する必要がある。

本研究では、以下の5点について考察を行う。

- ・瀋陽を中心に、中国東北部における都市集合住宅の臥室を中心とした平面構成・配置の特徴把握
- ・主として経済開放政策後の都市住宅について平面構成要素から分析し、平面構成の推移の特徴を把握する
- ・臥室内における家具（備品類）、臥室内で行われる行為の種類と量などを中心とする住まい方の把握
- ・臥室と起居庁（室）との対比により臥室を中心とする特徴的な空

*1 清水建設㈱ 工修
*2 北海道大学大学院工学研究科 助教授・工博
(〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目)

*3 新潟大学工学部 教授・工博
*4 八戸工業大学 教授・工博

*5 大連理工大学環境設計研究所 教授
*6 瀋陽建築工程学院 教授

*7 北海道大学大学院工学研究科 助手
*8 北海道大学大学院工学研究科 助手・工修
*9 ㈱ホルス 工博

*1 Shimizu Corporation, M. Eng.
*2 Assoc. Prof., Graduate School of Eng., Hokkaido University, Dr. Eng.

*3 Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Niigata University, Dr. Eng.
*4 Prof., Dept. of Architectural Eng., Hachinohe Institute of Technology, Dr. Eng.

*5 Prof., Dept. of Architecture, Darlian Institute of Technology, Dr. Eng.
*6 Prof., Dept. of Architecture, Shenyang Architecture and Civil Engineering Univ., Dr. Eng.

*7 Assistant, Graduate School of Eng., Hokkaido University
*8 Assistant, Graduate School of Eng., Hokkaido University, M. Eng.
*9 Hols Planning Office, Dr. Eng.

間のあり様をさぐる

・近代的な住宅計画の考えに基づく集合住宅計画とその住まい方を
通して中国東北地方の居住様式の特性をさぐる

3. 研究の方法、調査内容

本研究では、瀋陽の都市住宅を中心に上げ、同じ変化の過程にある大連、ハルビンでの集合住宅調査の結果を加え分析を行う。住宅の面積構成や空間構成に関わるものは3都市全体を対象とするが、住まい方の詳細等を把握する場合には瀋陽の事例を用いて分析を行った。

- ・実測調査による平面プラン採取
 - ・実測調査による家具・生活用品の配置状況把握
 - ・居住者へのヒアリングによる住まい方把握
- 調査時期、件数は表2に示したとおりである。

表2. 調査対象都市の調査戸数、平均住宅規模

	大連	ハルビン	瀋陽	合計(平均)
調査時期	2000年12月	2001年8月	2002年9月	—
調査数(件)	21	24	24	69
平均住宅規模(m ²)	53.2	87.6	81.6	(75.1)

4. 調査対象の性格

対象となった、大連、ハルビン、瀋陽、(合計69件)のうち、瀋陽(24件)の住宅、世帯、住まい方概要を表1に示す(注10)。3都市全体でみると、住宅の建設年次は80年以前2件、80年代18件、90年代41件、2000年以降8件である。80年

表1. 瀋陽都市集合住宅の基本属性、空間構成、および生活様式

	家族構成	建設年	住宅全体						主臥室		起居室(室)			履き替え				
			階数 (※1)	住宅面積 (※2)	住宅型 (※3)	住宅平面タイプ (※4)	暖房の種類		住宅全体の満足度 (※5)	主臥室の規模 (㎡)	住宅全体に占める割合 (%)	起居室(室)規模 (㎡)	住宅全体に占める割合 (%)	餐厅との関係 (※6)	家族	親戚・友人	その他の客	履き替え場所の数 (※7)
							ラジエーター	エアコン										
瀋陽01	夫婦+娘	1998	3/6	106.4	1庁2室	⑧	○	×	○	15.1	14.2	48.4	45.5	一体型	○	○	○	2
瀋陽02	夫婦+娘	2001	4/6	77.5	1庁2室	⑧'	○	×	○	16.3	21.0	22.1	28.5	一体型	○	○	○	2
瀋陽03	夫婦+娘	1996	7/8	67.9	1庁2室	⑦	○	×	×	17.6	25.9	16.6	24.4	独立型	○	○	○	3
瀋陽04	夫婦+息子	2001	7/7	63.6	2庁3室	⑥	○	×	○	17.7	27.8	15.6	24.5	一体型	○	○	○	1
瀋陽05	母+息子	1992	5/8	48.6	1庁2室	①	○	×	○	15.7	32.3	-	-	-	○	○	○	1
瀋陽06	夫婦	1980	1/4	51.1	1庁2室	⑨	○	×	○	15.7	30.7	-	-	-	×	×	×	0
瀋陽07	夫婦+息子	1999	4/7	65.7	3庁2室	⑧	○	○	○	14.4	21.9	24.1	36.7	一体型	○	○	○	2
瀋陽08	夫婦+娘	1999	2/7	114.5	1庁3室	⑧'	○	×	○	20.3	17.7	20.9	18.3	一体型	○	○	○	2
瀋陽09	夫婦+息子	1999	4/7	109.0	1庁3室	⑦	○	○	○	13.3	12.2	32.6	29.9	独立型	○	○	×	3
瀋陽10	母+息子夫婦	1979	不明	92.5	2庁3室	⑫	○	×	-	23.5	25.4	-	-	-	○	○	○	2
瀋陽11	夫婦+息子+手伝い	1997	2/5	180.4	3庁2室	⑬	○	×	×	28.6	15.9	20.7、46.9	37.5	独立型	○	○	○	3
瀋陽12	夫婦	1999	6/7	89.3	2庁3室	⑦	○	×	×	19.1	21.4	23.0	25.8	独立型	○	○	×	1
瀋陽13	母+息子夫婦+娘	1981	1/5	71.0	1庁3室	④	○	×	○	13.6	19.2	17.7	24.9	使い分け	○	○	○	1
瀋陽14	夫婦+娘2人	1995	3/6	111.5	2庁3室	⑦	○	×	○	16.0	14.3	34.8	31.2	独立型	○	○	○	2
瀋陽15	夫婦+娘	1998	3/5	155.0	4庁3室	⑧'	○	×	○	20.7	13.4	37.8	24.4	一体型	○	○	○	2
瀋陽16	親夫婦+息子夫婦	1998	3/4	51.4	1庁3室	①	○	×	○	14.2	27.6	-	-	-	○	○	○	2
瀋陽17	夫婦+娘	1994	2/6	110.5	1庁3室	⑦'	○	○	○	12.9	11.7	27.9	25.2	独立型	○	○	○	1
瀋陽18	母+孫	2000	3/7	49.1	2庁3室	④	○	×	○	14.8	30.1	12.8	26.1	使い分け	○	○	○	1
瀋陽19	夫婦+息子	1995	7/7	56.2	2庁4室	④	○	×	×	11.9	21.2	17	30.2	使い分け	○	○	○	2
瀋陽20	夫婦	1982	5/6	66.5	2庁4室	⑫	○	×	○	13.1	19.7	-	-	-	○	○	○	3
瀋陽21	夫婦+息子	1990	4/7	52.4	2庁3室	⑤	○	×	○	14.2	27.1	13.7	26.1	一体型	○	○	○	3
瀋陽22	夫婦+息子	1999	3/7	39.2	1庁4室	①	○	×	○	13.9	35.5	-	-	-	○	○	○	2
瀋陽23	母+息子夫婦+娘	1984	6/6	50.9	1庁3室	④	○	×	○	13.6	26.7	7.1	13.9	独立型	○	○	○	2
瀋陽24	夫婦	1992	3/8	78.6	3庁5室	⑤	○	×	○	13.8	17.6	19.9	25.3	独立型	○	○	○	3
合計(平均)	-	-	-	(81.6)	-	-	24	3	-	(16.3)	(22.1)	(24.2)	(29.7)	-	23	23	21	-

(※1) 調査対象住宅のある階／集合住宅の階数、を示す。(※2) 中国では一般的な有効内法面積を示す。(※3) 庁数、室数の順に空間構成を示す。(※4) 表4に対応する。
(※5) とても満足と満足は○、とても不満と不満は×で示す。(※6) 起居室(室)からみた、起居室との関係を示す。具体例は図5参照。(※7) 住宅内での履き替え場所の総数を示す

代は、40～70m²程度の住宅規模が中心なのに対し、90年以降になると、住宅面積が100m²を越える住宅もみられた(14件)。家族構成は、夫婦+子供の単純世帯が、44件と、全住宅の3分の2近くを占めている。残りの3分の1は、独居から4～5人世帯までで、概して世帯規模はあまり大きくはない。特に90年代以降における住宅面積の増加に対して、家族数の大きな変化はみられない。大規模住宅において室・庁数が単純に増加をしないこと、起居室に代表される大規模空間の獲得の影響など、庁の面積増加と部屋数の変化からも、中国東北地方の集合住宅が、独自の空間構成原理を

図1. 室と庁の定義、空間の名称

持っていることがうかがえる（注11）。

5. 空間の定義

「庁」、「室」の定義は以下に示すとおりである。主な空間名称の定義は、図1に示すとおりである。

「庁」とは、ある空間から、他の空間への通過動線をもつ空間のことを指す。つまり、庁は2つ以上の出入り口をもち、2つ以上他空間への移動が可能な空間のことをいう。ただし、陽台（バルコニー空間）や、物置などへの出入り空間の数はふくまないこととする。

「室」とは、室からの他室への開口は一つであり、通過動線の含まない空間のことを指す。室も庁と同じく、陽台や物置などの空間への開口は含まない。

6. 都市集合住宅の平面構成の特徴

起居庁（室）、餐厅、臥室は都市集合住宅平面において主要な居室構成要素である。各空間要素のつながり方や空間要素数の変化などから空間のつながり関係を系統図化し、タイプの関係付けを行ったものが図2である。3都市69件の住宅平面が対象である。

タイプ①～④までは空間要素が3つのタイプであり、臥室や起居庁、餐厅の増加により、タイプ⑤、⑥、⑦、⑧が派生する。餐厅と起居庁が一体化された空間がタイプ⑧、⑧'である。また、タイプ⑦に過道やその他の機能が挿入されたものであるが、ほとんど構成上同タイプと見なすことができるため、タイプ⑦'とした。タイプ⑧と⑧'に関しても同様である。また、タイプ①～④にかけては規模の小さいものが多く、住宅要素の増加に伴い、タイプ⑤～⑧にかけては住宅規模は大きくなっている。

中心に配置される機能から、狭い餐厅が動線の中心である「餐厅中心型」（19件）、だんらん接客の場から主要居室への移動が可能な「起居庁中心型」（19件）、餐厅と起居庁が一体化された大空間をもつ「餐厅・起居庁中心型」（20件）、過道などを動線の中心にもつ「他機能中心型」（11件）の4つのグループに分けられた。

それぞれのグループにおいて共通する特徴は、中心におかれた機能が玄関部分を含むか、玄関から一番近い位置に配置されることであり、公的要素も強くなる。また、臥室は玄関から遠い位置に配置され、特に主臥室はもっとも玄関から遠い位置に配置される。主臥室は特に私的空間としての要素が強く、住宅全体におけるその位置はもっとも静かで安らげる空間であり、日照や通風を確保しやすい外に面した場所に配置されている。住宅の中心におかれる機能の公的要素が強いことと、臥室の私的でありながら住宅内において安らげる場所に配置されていることは、中国東北部の都市集合住宅の平

表3. 建築年代と住宅平面タイプ（3都市）

	～1979	1980～1984	1985～1989	1990～1994	1995～1999	2000～	不明
タイプ①							
タイプ②							
タイプ③							
タイプ④							
タイプ⑤							
タイプ⑥							
タイプ⑦							
タイプ⑦'							
タイプ⑧							
タイプ⑧'							
タイプ⑨							
タイプ⑩							
タイプ⑪							
タイプ⑫							
タイプ⑬							

1980～2000年まで広く分布し、タイプ①は「餐厅中心型」、タイプ④は「起居庁中心型」である

1985年前後から2002年にかけて変化し、「餐厅中心型」から「起居庁中心型」へ、そして「餐厅・起居庁中心型」へ推移する

「他機能中心型」は、1980～2000年まで広く分布している

面構成上の大きな特徴といえる。

7. 建築年代と住宅平面タイプの変化

年代によってあまり変わらないものは、タイプ①と④、「他機能中心型」である（表3）。これらのタイプの共通点はタイプ⑩以外、餐厅、起居庁（室）の要素のどちらかがかけたタイプである。タイプ①とタイプ④の特徴は、40～50㎡の規模のものが多く、家族規模が小さいことである。現在においても小人数の家族であり小規模住宅の場合には、餐厅又は、起居庁の両側に臥室が配置されるという、単純な空間構成をとることが特徴といえる。

また、時代推移のみられるタイプは、臥室、起居庁（室）、餐厅、餐厅+起居庁など、主要空間要素が4つ以上のもので、「餐厅中心型」から、「起居庁中心型」へ、近年では「餐厅・起居庁中心型」

へと変化する傾向がみられた。この流れは特に90年以降において顕著にみられる。「餐厅中心型」における餐厅は、小規模でありながら主動線が集まる場、また玄関部分に配置されることが多く、公的な要素が強い。起居室には餐厅からの動線があるのみである。「起居庁中心型」における起居庁は、玄関部分を含んだ空間であること、動線の中心で家族が行き来する移動と集まりの場となっている。「起居庁・餐厅中心型」における、餐厅・起居庁はおよそ20～30㎡以上の大規模な空間が確保されている。そこは移動と集まりの場の中心であり、ゆとりのある玄関機能も含む。

住宅の中心機能が食事と移動を中心とした空間から接客や家族の団らん空間に移行することで、家族の集まり場や応接空間に対する意識の高まりが読みとれる。近年の住宅において、特に住宅規模の大きいものでは起居庁（室）面積が大きくなり住宅の中心に据えられていることから、起居庁（室）は今後の中国東北部の都市集合住宅を考える上で注目すべき空間といえる。

図3. 住宅総面積と起居庁・室面積の関係（3都市）

8. 起居庁（室）と主臥室の面積変化

起居庁（室）は、1980年代以前の集合住宅にはあまりみられず、面積も大きくはなかった。しかし、近年においてはほとんどの住宅に起居庁（室）は設けられ、面積も拡大する傾向がある。住宅面積との関係でみると住宅面積の増加にともない、起居庁（室）面積は比例して増加しており、平均して住宅全体の約30%を占める（図3）。近年にみられる住宅総面積の増加にともない大規模な起居庁（室）がしつらえられるようになった。

一方、主臥室面積は、住宅面積の増加にともない多少増加する傾向にあるが、大きな変化ではない。起居庁（室）面積の増加に比べれば、ほぼ同じ大きさを保っているといえる（図4）。主臥室面積は10～20㎡程度のもが多く、寝室規模としては比較的ゆとりのある面積が確保されている。起居庁（室）面積の増加傾向から、近年においても接客・だんらんに必要な適正規模が必ずしも定まっていなかったことが読みとれる。これに対して主臥室は、住様式として

図4. 住宅総面積と主臥室面積の関係（3都市）

表5. 主臥室・起居庁（室）に置かれる家具と主臥室空間の使われ方（瀋陽）

	住宅全体			起居庁（室）							主臥室																	主臥室への意識（*1）	
	住宅面積	住宅型	住宅平面タイプ	起居庁・室におかれる家具							主臥室面積		主臥室におかれる家具							主臥室の利用の仕方									
				テレビ	テーブル	イス	ソファ	本棚	机	パソコン	主臥室の規模	住宅全体に占める割合（%）	テレビ	テーブル	イス	ソファ	本棚	机	パソコン	団楽	接客	テレビ	読書	遊び	作業	食事	家具の移動		個人の場合
	(㎡)										(㎡)	(%)																	
瀋陽05	48.6	1庁2室	①	-	-	-	-	-	-	-	15.7	30.7	○	○	×	○	×	○	×	×	○	○	×	×	×	×	○	×	○
瀋陽16	51.4	1庁2室	①	-	-	-	-	-	-	-	14.2	27.6	○	×	○	×	×	×	○	×	○	○	×	×	○	×	○	○	○
瀋陽22	39.2	1庁2室	①	-	-	-	-	-	-	-	13.6	26.7	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	○	×	×
瀋陽13	71	2庁3室	④	○	○	○	○	×	×	×	19.1	21.4	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×
瀋陽18	49.1	1庁2室	④	○	○	○	×	○	×	×	11.9	21.2	×	×	○	×	×	×	×	○	○	×	×	○	×	○	×	×	○
瀋陽19	56.2	1庁2室	④	○	○	×	○	×	×	×	13.1	19.7	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	×	○
瀋陽23	50.9	3庁2室	④	○	○	○	○	×	×	×	13.8	17.6	○	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×
瀋陽21	52.4	1庁3室	⑤	○	○	○	○	×	×	×	13.9	35.5	×	×	○	×	×	○	○	○	×	○	×	×	×	×	○	○	×
瀋陽24	78.6	1庁3室	⑤	○	×	○	○	×	○	×	17.7	27.8	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	×
瀋陽04	63.6	2庁3室	⑥	○	○	○	○	×	×	×	15.7	32.3	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○
瀋陽03	67.9	3庁2室	⑦	○	○	○	○	×	×	×	17.6	25.9	○	×	○	×	×	○	○	○	×	○	×	○	×	×	×	×	○
瀋陽09	109	2庁3室	⑦	○	○	○	○	×	×	×	13.3	12.2	×	×	○	×	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×	○	×
瀋陽12	89.3	1庁3室	⑦	○	○	○	○	×	×	×	20.7	13.4	×	×	○	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×
瀋陽14	111.5	2庁3室	⑦	○	○	×	○	×	○	○	13.6	19.2	○	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○
瀋陽17	110.5	4庁3室	⑦	○	○	○	○	×	×	×	14.8	30.1	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	○	×	○
瀋陽01	106.4	1庁3室	⑧	○	○	×	○	×	×	×	15.1	14.2	○	×	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	-	-
瀋陽07	65.7	1庁3室	⑧	○	○	○	○	×	○	×	20.3	17.7	×	×	○	×	○	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×	○	○
瀋陽02	77.5	2庁3室	⑧	○	○	○	○	×	×	×	16.3	21	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	○
瀋陽08	114.5	2庁4室	⑧	○	○	○	○	×	○	×	12.9	11.7	×	×	○	×	○	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×
瀋陽15	155	2庁4室	⑧	○	○	○	○	×	×	×	16	14.3	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	○	×
瀋陽06	51.1	2庁3室	⑨	-	-	-	-	-	-	-	14.4	21.9	○	○	○	×	○	×	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	○
瀋陽10	92.5	1庁4室	⑩	-	-	-	-	-	-	-	23.5	25.4	○	○	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○	○	×	×	○	○
瀋陽20	66.5	1庁3室	⑩	-	-	-	-	-	-	-	14.2	27.1	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
瀋陽11	180.4	3庁5室	⑪	○	○	○	○	×	×	×	28.6	15.9	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	○	×
合計	-	-	-	18	17	15	17	2	4	2	-	-	14	10	18	8	6	14	6	13	11	16	11	11	10	3	13	12	13

(*1) ヒアリング調査において主臥室への意識が、家族共有の空間であるか、個人の空間であるのかを聞いた。家族の空間であるが個人的な場としても考えていると回答した場合には両方に○。

住宅規模や時代背景によらず、ほぼ一定のものが維持され続けていることがうかがえる。

9. 起居庁(室)、主臥室の家具と使われ方

起居庁(室)、主臥室の家具の置かれ方から部屋の性格をみてみる。起居庁(室)に置かれる家具としては、テレビ、イス、テーブル、ソファなどがあり、そこは主に団らんや接客を行うための空間としてしつらえられていることがわかる。平面タイプによって起居庁(室)におかれる家具に大きな違いはない。どの住宅においてもある程度きまった家具・設備が導入され、その利用方法からみた部屋の性格は画一的なことがうかがえる(表4)。

図5. 住宅平面と住まい方の典型例—起居庁(室)と主臥室を中心とした空間の使われ方

10. 起居庁（室）と主臥室を中心とした住まい方

起居庁（室）の有無は、接客・だんらんを中心とした住まい方に大きな影響を与えている。すなわち起居庁（室）を持たない住宅では、接客・だんらん機能の大部分は主臥室に持ち込まれる。一方、起居庁（室）をもつ住宅においては時間帯、相手の属性、行為の種類などによって起居庁（室）と主臥室が使い分けられている。

まず、起居庁（室）をもつ住宅では通常、起居庁（室）で接客を行うが、親しい友人を招く場合などには主臥室を利用することがある。そのような例が瀋陽調査で18件中7件確認された。起居庁（室）を持たない住宅（図5、平面タイプ①）で、玄関前に餐厅がある場合は一般的にそこが接客の場となるが、友人や親戚を接客したり長話の場合は主臥室が利用される。主臥室のベッドをソファやイスの機能を持つ家具として利用し、接客する場合が多く、リラックスできる空間であることが利用を促す要因の一つと思われる。

平面タイプ①（図5）では通常、主臥室にテレビやソファなどの家具がおかれ、だんらんの中心となることが多い。これに対して、起居庁（室）をもつ住宅（図5、平面タイプ④、⑦、⑧'）では、多くの場合だんらん行為は起居庁（室）で行われる。餐厅と起居庁が一体化されたタイプ（餐厅一体利用、平面タイプ⑧'）では、食後のだんらんが連動して行われ、餐厅を持たないタイプ（餐厅使い分け、平面タイプ④）では起居庁で食事が行われるため食事の前後の時間帯は家族が多く集まるなど、餐厅と起居庁（室）の関係によって特徴的な行為もみられる。しかし、テレビやソファなどが主臥室にもおかれる場合には、主臥室でのだんらん行為もかなりの程度みられる。就寝前や、家族が別々にテレビを見る場合など、時間帯や場面によって使い分けられていることが理解できる。

主臥室に本棚、パソコン、机などがおかれ、書斎、仕事・作業場として利用している例が瀋陽調査では24件中19件でみられた。持ち込まれる家具にもばらつきがみられた。就寝前に読書をするのに都合がよい、ベッドで本が読める、などの利点がある他、臥室が個人の生活（仕事）空間になっていることがわかる。

このように起居庁（室）では、定型化した接客やだんらんを受け持つ空間としては機能しているが、リラックスした家族のだんらんや親しい友人の接客など、家族共用のつどい空間の機能を十分に確立しているとは必ずしもいえない。一方で主臥室は、くつろぎ空間としてそれらの機能を受け持ち、個人の生活にも対応している。現実的な住まい方への意識が反映された、個人と家族のための、多様性がありフレキシブルで自由度の高い空間であるといえる。

10. まとめ

以下のように要約できる。

- ・1980年代後半以降、中国東北地方の集合住宅平面は、餐厅中心から起居庁中心へのプランへと移行し、近年では餐厅と起居庁を一体化したプランが増加傾向にある。このことから、接客を含めた家族の新しい集い空間への意識が高まっていることがわかる。
- ・近年の住宅面積の増加にともない、起居庁（室）面積はそれにほぼ比例して増加している。このように家族の新しい集い空間としての起居庁（室）の規模が変化しているのに対し、主臥室面積は年代によらず安定した規模を維持している。このことから部屋の多機能利用が可能なだけの規模がほぼ確立されていることが認められる。

・起居庁（室）には、テレビ、ソファ、イス、テーブルといった典型的なリビング家具がおかれるのに対し、主臥室にはプライベート、リビング両様の家具がおかれるなど、特徴的な臥室利用形態がみられる。

・起居庁（室）をもつ住宅では、起居庁（室）で接客が行われることが多いが、接客相手の属性などにより主臥室との使い分けが行われている。一方、起居庁（室）を持たない住宅では臥室がだんらんの中心になることが多い。

このように中国東北地方の集合住宅においては、だんらん・接客専用の部屋（起居室・庁）を導入しながらも、伝統的な性格の強い主臥室がまだ大きな役割を果たしていることが特徴的である。主臥室には大きなベッドがあり、その上で家族の団らんや、休息、遊び、また、広い床上スペース（清浄空間）を必要とするような作業が行われている。そのことを考えてベッドは日本よりも堅いものが多い。ベッドをイス代わりにして接客に使うケースも少なくない。もとよりさまざまな個人の生活も営まれる。時間帯と行為種別により上手に部屋の使い分けをしている。このような中国東北地方の特徴でもある集約型の生活空間利用のあり方は、近代的な住宅計画（改善）と決して相容れないものではなく、むしろ積極的にそれらの特性を活かすことが重要である。今後の住宅計画において、個人と家族両面の生活に対応し、フレキシブルな性格をもつ主臥室と、だんらんなどの家族生活の主要な部分を担う起居庁（室）とで適切に役割分担をした新しい住宅計画の確立が必要である。

注

- 注1) 文献1)
- 注2) 文献2)
- 注3) 文献3)
- 注4) 文献4)
- 注5) 文献5)、文献6)、文献7)
- 注6) 文献5)
- 注7) 文献6)、文献7)
- 注8) 図1を参照
- 注9) 図1を参照
- 注10) 大連、ハルビンの住宅・世帯概要については、文献6)を参照
- 注11) 文献6)

参考文献

- 1) 上北恭史：中国の住宅における空間構成原理の持続と変容、筑波大学博士論文、1997
- 2) 友清貴和：庁型住宅の発展過程と庁の役割-中国の都市住宅に関する研究、日本建築学会計画系論文集 第458号、pp53-61、1994.4
- 3) 表野聖子、藤田忍、ほか：中国における都市集合住宅の平面構成と接客空間に関する研究-その1 平面構成の地方性-、日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）、pp47-48、1999.9
- 4) 王青「集合住宅における住形式・住様式の伝統と変容に関する研究-中国北方事例に基づいた比較考察」博士論文、1996
- 5) 野口孝博ほか：「庁を中心にみた住空間構成の変化について大連を中心とする中国東北地方住宅・住様式に関する調査研究（1）」日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp539-540、2001.9
- 6) 山下義行、野口孝博ほか：大連・ハルビン市における都市集合住宅の空間構成と居住様式-中国北方居住様式の近代化に関する研究、日本建築学会技術報告集 第16号 pp213-216、2002.12
- 7) 野口孝博ほか：大連市における農村戸建て住宅の空間構成とすまい方の変化-カンを中心とする中国北方居住様式に関する研究、日本建築学会技術報告集 第17号、2003掲載予定

[2003年4月17日原稿受理 2003年7月29日採用決定]